

令和 6 年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画とりまとめ課	建設緑政局道路河川整備部 道路整備課	要素事業所管課	建設緑政局道路河川整備部道路整備課 建設緑政局道路河川整備部施設維持課 建設緑政局自転車利活用推進室 まちづくり局登戸区画整理事務所
----------	-----------------------	---------	---

1 計画の概要

計画の名称	川崎市内における防災安全を考慮した交通空間の整備 (防災・安全)	計画の期間	平成 31 年度～令和 5 年度
計画の目標	・川崎市内における交通事故の防止や防災・減災対策による道路の安全性向上を目的とした道路交通空間の整備を推進する。		
計画の成果目標(定量的指標)	・川崎市内の 1,000 人当たり年間平均人身事故件数を現況値(平成 26 年～平成 30 年平均)(2.34 件/1,000 人)から R5 までに 7%削減する。 ・川崎市内で道路冠水注意箇所マップに該当するアンダーパス部の冠水表示板等設備の整備率(新設及び更新)を 22%から 100%まで増加させる。		
計画変更を行った場合、変更内容の概要	令和 2 年度より、社会資本整備総合計画「川崎市内における安全で快適な自転車通行環境の構築(防災・安全)」への移行(自転車通行環境整備事業)に伴う要素事業の減。また、事業箇所の追加(施設整備事業等)に伴う要素事業の増。		

2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況(概要)

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(千円) (評価時)	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初(千円)	評価時(千円)			
A (基幹事業)	(主)川崎府中(生田)、 (市)尻手黒川線、 (県)川崎町田ほか	5,455,000	2,076,000	2,076,000	100	次期計画に継続
B (関連社会 資本整備事 業)	—					
C (効果促進 事業)	—					
全体事業費(A+B+C)		5,455,000	2,076,000	2,076,000	100	

3-1 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、内容	川崎市内の 1,000 人当たり年間平均人身事故件数を現況値(平成 26 年～平成 30 年平均)(2.34 件/1,000 人)から R5 までに 7%削減する。			
定義及び算定式	年間平均人身事故件数削減率(%) (前計画の平均事故件数-本計画の平均事故件数) / 前計画の平均事故件数 × 100			
その指標を設定した理由	本計画の指標は、歩道部の安全対策を講ずるために歩道設置や道路施設の修繕等を実施することで、人身事故件数を減少させるため。			
当初現況値(H30)	中間目標値	最終目標値(R5)	実績値(確定)	目標達成状況
2.34 件/1,000 人	—	2.17 件/1,000 人 (7%削減)	1.80 件/1,000 人 (23%削減)	達成
目標達成状況に対する所見	「川崎市内の 1,000 人当たり年間平均人身事故件数の削減率」は 23%になり、目標値(7%)を達成した。要因としては、本整備計画における対策の他に、交付金の対象外となる対策等を市費で実施したことによって歩道の安全対策が充実してきたことによる整備効果が実績値に反映されたものと考えられる。			
将来の見込み	人身事故の未然防止に向けて、歩道部等における安全対策は引き続き重要であることから、日常の道路施設の点検(パトロール)等を通じて現状を把握し、更なる人身事故件数の削減に努めていく。			

3-2 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、内容	川崎市内で道路冠水注意箇所マップに該当するアンダーパス部の冠水表示板等設備の整備率（新設及び更新）を22%から100%まで増加させる。			
定義及び算定式	冠水表示板等の整備率（%） 冠水表示板等施設の整備済箇所数 / 冠水表示板等整備の必要箇所数 × 100			
その指標を設定した理由	本事業の整備率は、道路冠水注意箇所における事故防止措置を施した箇所数を示し、安全性向上に繋がったことを表す指標となるため。			
当初現況値 (H30)	中間目標値	最終目標値 (R5)	実績値 (確定)	目標達成状況
22%	—	100%	100%	達成
目標達成状況に対する所見	気候変動によるゲリラ豪雨や大雨等が増加傾向にある中、目標通りに整備が進められたことは、市民の安全等に大きく貢献できたものとする。			
将来の見込み	令和5年度改訂の川崎市道路維持修繕計画に記載し維持管理手法の検討を実施したため、今後は本計画に則り適切に維持管理を行う。			

4 事業効果の発現状況（計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの）

評価指標の名称、内容	—
定義及び算定式	—
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	—
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	—

5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	<p>【市民意見聴取】</p> <p>Web アンケート調査による施策に関する評価・意見を収集 実施方法：インターネットリサーチ会社経由にて市内在住登録者に対して Web アンケートを実施 実施期間：令和6年9月3日～4日 対象者：川崎市在住者 回答数：400サンプル</p> <p>【主な道路利用者への意見聴取】</p> <p>事業者アンケート調査による施策に関する評価・意見を収集 実施方法：アンケート表を配布し、二次元コード及びメールによる回収を実施 実施期間：令和6年8月23日～9月20日 対象者：一般社団法人神奈川県トラック協会川崎サービスセンター、神奈川県タクシー協会川崎支部、バス事業者5社 回答数：10件（タクシー協会6件、バス事業者4件）</p>
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	<p>事業者アンケートでは、4割の事業者が、安全性の向上などの道路整備の効果を感じている結果となった。また、市民アンケートでは、「安全」と感じている方が、「危険」と感じている方を上回っているものの「どちらとも言えない（変わらない）」との回答が半数以上（約6割）を占める結果となった。以上を踏まえ、道路利用者である市民については、事業効果があまり実感されていない現状であるため、事業内容を含めた整備効果について工事中に現場でPRする等、様々なツールを用いて情報発信していく。併せて、自転車運転に関する「危険走行」や「安全意識の低下」といった自転車の交通ルールやマナー等の徹底に関する意見が寄せられたため、道路利用者の安全性等の向上に向けて、ソフト対策（マナーアップ向上）を行う。</p>

6 今後の方針等

総合的な所見	<p>「老朽化対策」、「事前防災・減災対策」、「生活空間の安全確保」をバランスよく取り組んだ結果、定量的指標の目標値を達成することができた。この成果により、人身事故の防止及び防災、減災対策による道路の安全性向上について効果があったといえる。</p> <p>また一方で、市民意見募集の結果から、市民等の実感には繋がっていないことも確認された。</p>
--------	--

<p>今後の方針</p> <table border="1" data-bbox="137 221 304 286"><tr><td>次期計画</td></tr><tr><td>あり・なし</td></tr></table>	次期計画	あり・なし	<p>市民の方々が安心して生活できるように、日常の道路施設の点検（パトロール）等を通じて、現状を把握し、自転車利用者のマナー向上等のソフト対策とともに、人身事故の未然防止に向けた事故の要因や利用状況等の分析を行い、市民の実感に繋がる効果的な整備を取り組むとともに防災、減災対策を引き続き進める。</p>
次期計画			
あり・なし			